



6.11大集会、会場からあふれるほどの参加者！

蒲谷市長、市議会の答弁で のりくらり・・・

市長選が迫る中、市議会が行われましたが、蒲谷亮一市長の答弁は、いつにも増して「のりくらり」が目立ちました。

1番手に登壇した日本共産党井坂新哉市議団長は、原子力空母のメンテナンスについて質問しましたが、蒲谷市長は「ファクトシートに違反しているとは思わない」といった答弁を繰り返しました。

井坂議員は、「市民の安全を守る主体的な立場は？」「市民への説明責任を果たすべき」「米議会でのキーティング司令官の証言をどう思うのか？」「それを間違いだと言うのなら、米国の誰が否定したのかを明らかにすべき」と激しく迫り、インターネット中継を見ながら手に汗握る思いでしたが、市長は「先ほどから述べている通り・・・」と、最後まで主体性のない答弁を繰り返しました。

集会は、勇壮な八丈太鼓に始まり、DVD上映を行ったあと、ごとう正彦弁護士を応援する6人の市議が勢ぞろいし、挨拶しました。続いて各地域・分野からの参加者が登壇し、決意表明を行いました。参加者が登壇したままで、反貧困ネットワーク代表・年越し派遣村名誉村長の宇都宮健児弁護士が登場すると、会場は大きな拍手に包まれました。宇都宮弁護士は、彼の元で8年間学んだ呉東正彦弁護士を「一番弟子」と呼び、「市長になって、是非、反貧困モデル自治体に！」と熱きエールを送りました。

昨年の同時期と比べて、横須賀の生活保護の件数は、1.8倍になっています。宇都宮健児さんは、「貧困が戦争を呼び、平和を脅かすものにもなる」と話をされました。

会場は、開始時には空席が目立ったものの、あとからあとから押し寄せる参加者に、ついに立ち見が出

る状態となり、用意した資料は、1000部配布されました。文化会館大ホールでの集会参加者は、蒲谷現市長が800～1000人、吉田雄人氏が500～600人となっており、ごとう弁護士が圧倒しています。参加者は大いに氣勢を上げ、必勝を誓い合いました（写真は阻止連ニュースより）。

また、この状況に危機感を感じた蒲谷陣営では、小泉元首相が、9年ぶりに演説会を行いました。

6/7(日)に、21全駅頭でマニフェスト配布！

コンパクトサイズのマニフェストが完成した6/7夕、ごとう正彦弁護士は、市内に21箇所ある全ての駅頭を回り、マニフェストを配りながら訴えを行いました。実は鉄道マニアの呉東弁護士は、電車を乗り継いで行動しましたが、6/11の集会で、その様子がDVDで上映されました。発車ベルの鳴る中、必死で階段を駆け上がる呉東弁護士とゴジラの着ぐるみの姿に、「実は元陸上部」のテロップが！

